



平成26年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 サカタのタネ

コード番号 1377 URL <http://www.sakataseed.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 坂田 宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長兼経理部長 (氏名) 宇治田 明史

TEL 045-945-8800

四半期報告書提出予定日 平成26年4月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年5月期第3四半期の連結業績(平成25年6月1日～平成26年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年5月期第3四半期	37,869	12.4	3,335	72.5	3,446	23.7	2,256	△10.9
25年5月期第3四半期	33,691	6.2	1,933	△25.6	2,787	△3.0	2,532	66.8

(注)包括利益 26年5月期第3四半期 5,161百万円 (8.3%) 25年5月期第3四半期 4,766百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年5月期第3四半期	50.15	—
25年5月期第3四半期	56.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年5月期第3四半期	96,644	81,742	84.4
25年5月期	89,787	77,686	86.4

(参考)自己資本 26年5月期第3四半期 81,610百万円 25年5月期 77,577百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年5月期	—	10.00	—	15.00	25.00
26年5月期	—	10.00	—	—	—
26年5月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年5月期の連結業績予想(平成25年6月1日～平成26年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,000	3.4	3,300	48.7	3,500	△1.8	2,500	△19.3	55.55

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年5月期3Q	48,410,750 株	25年5月期	48,410,750 株
② 期末自己株式数	26年5月期3Q	3,404,247 株	25年5月期	3,403,243 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年5月期3Q	45,007,021 株	25年5月期3Q	44,995,727 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に関する四半期レビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際に業績は、今後様々な要因によって予測数値に異なる結果になる可能性があります。業績予想に関連する事項については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期 純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
26年5月期 第3四半期	37,869	3,335	3,446	2,256	50.15
25年5月期 第3四半期	33,691	1,933	2,787	2,532	56.28
前年同期比	4,178	1,402	659	△275	△6.13
増減率	12.4	72.5	23.7	△10.9	—

当第3四半期連結累計期間（平成25年6月1日から平成26年2月28日まで）における世界経済をみますと、米国では、設備投資や個人消費を中心に緩やかな回復基調にあり、また、欧州経済においてもプラス成長が持続し、経済持ち直しの動きが見えつつあります。一方、新興国では、中国は景気減速が懸念され、またインド経済においても低迷が長期化するなど、先行き不透明感が漂う状況にあります。

わが国経済は、公共投資や住宅投資などの高い伸びや、輸出拡大、個人消費の回復などにより、堅調な成長が続いております。

当種苗業界は、依然として国内需要は頭打ちの状況が続いておりますが、海外においては、新興国を中心に、野菜種子、花種子の需要は拡大を続けております。

このような状況のなか、当社グループにおいては、国内卸売事業は野菜種子、苗木、資材を中心に順調に売上を伸ばしました。海外卸売事業においても野菜種子が好調に推移し、前年同期比増収となりました。小売事業は、猛暑、大雪などの天候不順の影響もあり、厳しい状況となりました。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は378億69百万円（前年同期比41億78百万円、12.4%増）と増収となりました。営業利益は33億35百万円（前年同期比14億2百万円、72.5%増）となりましたが、経常利益は、為替差損が2億76百万円（前年同期は為替差益4億20百万円）発生したことから、34億46百万円（前年同期比6億59百万円、23.7%増）にとどまりました。四半期純利益におきましても、固定資産売却益、投資有価証券売却益などの特別利益が前年同期に比べ大きく減少したことなどから22億56百万円（前年同期比2億75百万円、10.9%減）と減益となりました。

当第3四半期連結累計期間の海外連結子会社等の財務諸表（収益及び費用）の主な為替の換算レートは、次のとおりです。なお、第1四半期の連結対象期間は4-6月、第2四半期の連結対象期間は7-9月、第3四半期の連結対象期間は10-12月です。

	当第1四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
米ドル	98.63円 (79.31円)	97.75円 (77.61円)	105.40円 (86.58円)
ユーロ	128.56円 (98.73円)	131.90円 (100.22円)	145.04円 (114.69円)

注：（ ）内は前年同期の換算レート

セグメント別の業績の概要は次のとおりです。

①国内卸売事業

国内卸売事業は、総じて順調に売上を伸ばし、前年同期比大幅増収となりました。また、野菜種子、花種子、資材では一部の商品で消費税増税に伴う前倒し需要が発生しました。

野菜種子はブロッコリーが引き続き好調でした。更にはトウモロコシ、コマツナ、キャベツ、ハウレンソウが売上を大きく伸ばしました。ニンジン、トマトも堅調に推移し、前年同期比増収となりました。花種子は、トルコギキョウをはじめとして新品種の投入効果が現れ、前年同期比増収となりました。特に戦略商品のヒマワリが好調に推移し売上を伸ばしました。苗木は、トマト接木苗が引き続き好調に推移しました。また、メロン、キュウリ苗の売上も好調で、前年同期比増収となりました。資材においては、昨年夏の猛暑の影響を受けた園芸用肥料、育苗培養土などの売上が回復基調となりました。更には農業用フィルム製品や戦略商品の高機能液肥などが売上を伸ばし、前年同期比増収となりました。

これらの結果、売上高は、前年同期比4億81百万円（同4.1%）増の123億14百万円となり、営業利益は同比33百万円（同0.7%）増の48億40百万円となりました。

②海外卸売事業

それぞれの地域別の状況をみますと、アジア向け輸出は、ブロッコリー、ホウレンソウなどが大きく伸びたことから前年同期比増収となりました。北米では、野菜種子、花種子ともに現地通貨ベースでは前年同期比減収となりましたが、円安の効果もあり、円ベースでは前年同期比増収となりました。欧州は、ブロッコリー、メロンなどの野菜種子が好調に推移し、前年同期比増収となりました。南米においても、野菜種子が順調に売上を伸ばし、前年同期比増収となりました。

品目別では、野菜種子はブロッコリー、トマト、ニンジン、カボチャなどが伸びたことから、前年同期比増収となりました。花種子につきましては、円安の影響で円ベースでは前年同期比増収となりましたが、現地通貨ベースにおいては、北米、欧州地域では減収となりました。

これらの結果、売上高は、前年同期比42億74百万円(同28.9%)増の190億71百万円となり、営業利益は17億35百万円(同70.2%)増の42億7百万円となりました。

③小売事業

ホームガーデン分野は、昨年夏の記録的な猛暑と秋終盤の急激な気温低下、また今年2月に関東甲信地方を襲った豪雪などの影響に加え、不採算商品の販売縮小を行ったことから、売上高は前年同期比大きく減収となりました。利益面は、不採算商品の見直しや物流コストの圧縮などを行いましたが、売上減少による利益減をカバーできず、前年同期比減益となりました。

通信販売分野は、農・園芸資材において、営業媒体の企画を刷新した効果などから販売増となりましたが、花種子、秋植球根、果樹苗などが伸び悩んだことなどから、前年同期比減収となりました。

ガーデンセンターでは、昨年夏の猛暑、11月中旬以降の冷え込みの影響と今年2月の大雪により、営業全般に苦戦を強いられましたが、店舗新装によるご来店者数の増加に加え、11月立ち上げたネットショップ「サカタのタネっと」による新規売上などの効果もあり、売上は前年同期比増収となりました。

これらの結果、売上高は、前年同期比5億66百万円(同8.3%)減の62億43百万円となり、営業損益は23百万円悪化し、4億62百万円の損失(前年同期は4億38百万円の営業損失)となりました。

④その他事業

造園緑花分野は、官公庁工事、芝生成成管理などが増加しましたが、屋上緑花植栽工事、個人向け植栽工事などが伸び悩んだことなどから、前年同期比減収となりました。

これらの結果、売上高は前年同期比11百万円(同4.6%)減の2億39百万円となり、営業損益は9百万円悪化し、63百万円の損失(前年同期は53百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	増減
総資産(百万円)	89,787	96,644	6,856
純資産(百万円)	77,686	81,742	4,056
自己資本比率	86.4%	84.4%	△2.0%
1株当たり純資産(円)	1,723.66	1,813.32	89.66
借入金の残高(百万円)	2,131	3,584	1,452

①資産の部

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ68億56百万円増加し、966億44百万円となりました。これは現金預金が29億6百万円、たな卸資産が29億11百万円、有形固定資産が9億91百万円、投資有価証券が9億4百万円増加し、受取手形及び売掛金が18億48百万円減少したことなどによるものです。

②負債の部

負債合計は、前連結会計年度末に比べ28億円増加し、149億1百万円となりました。これは長短借入金が14億52百万円、未払法人税等が5億33百万円、その他流動負債が2億77百万円増加したことなどによるものです。

③純資産の部

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ40億56百万円増加し、817億42百万円となりました。これは利益剰余金が11億31百万円、その他有価証券評価差額金が4億55百万円、為替換算調整勘定が24億47百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年1月14日に公表いたしました連結業績予想から変更ありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当社及び主たる国内連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,511	16,417
受取手形及び売掛金	13,841	11,993
有価証券	49	49
商品及び製品	18,233	20,472
仕掛品	1,146	1,219
原材料及び貯蔵品	2,212	2,587
未成工事支出金	24	248
繰延税金資産	1,557	1,697
その他	2,214	3,111
貸倒引当金	△371	△406
流動資産合計	52,419	57,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,387	27,390
減価償却累計額	△16,577	△17,522
建物及び構築物（純額）	9,809	9,868
機械装置及び運搬具	9,852	10,593
減価償却累計額	△7,808	△8,432
機械装置及び運搬具（純額）	2,044	2,161
土地	13,990	14,152
建設仮勘定	245	765
その他	2,742	3,042
減価償却累計額	△2,272	△2,438
その他（純額）	470	604
有形固定資産合計	26,560	27,552
無形固定資産	974	942
投資その他の資産		
投資有価証券	9,207	10,111
長期貸付金	162	163
繰延税金資産	132	133
その他	536	570
貸倒引当金	△205	△222
投資その他の資産合計	9,832	10,757
固定資産合計	37,367	39,252
資産合計	89,787	96,644

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,584	2,694
短期借入金	1,143	2,595
未払法人税等	618	1,151
繰延税金負債	28	50
役員賞与引当金	8	2
その他	3,531	3,808
流動負債合計	7,914	10,302
固定負債		
長期借入金	988	989
繰延税金負債	565	911
退職給付引当金	1,439	1,419
役員退職慰労引当金	467	512
負ののれん	1	0
その他	723	765
固定負債合計	4,186	4,599
負債合計	12,100	14,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,500	13,500
資本剰余金	10,823	10,823
利益剰余金	58,838	59,970
自己株式	△4,468	△4,470
株主資本合計	78,693	79,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,117	2,572
為替換算調整勘定	△3,232	△785
その他の包括利益累計額合計	△1,115	1,787
少数株主持分	108	131
純資産合計	77,686	81,742
負債純資産合計	89,787	96,644

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
売上高	33,691	37,869
売上原価	16,207	17,505
売上総利益	17,483	20,363
販売費及び一般管理費	15,549	17,028
営業利益	1,933	3,335
営業外収益		
受取利息	83	88
受取配当金	179	184
受取賃貸料	162	148
負ののれん償却額	1	0
為替差益	420	—
その他	70	65
営業外収益合計	917	487
営業外費用		
支払利息	39	60
為替差損	—	276
その他	24	39
営業外費用合計	63	376
経常利益	2,787	3,446
特別利益		
固定資産売却益	150	14
投資有価証券売却益	646	72
特別利益合計	796	87
特別損失		
減損損失	80	45
その他	24	—
特別損失合計	105	45
税金等調整前四半期純利益	3,478	3,488
法人税、住民税及び事業税	1,057	1,156
法人税等調整額	△116	76
法人税等合計	940	1,233
少数株主損益調整前四半期純利益	2,537	2,255
少数株主利益又は少数株主損失(△)	5	△0
四半期純利益	2,532	2,256

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,537	2,255
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,605	455
為替換算調整勘定	623	2,449
その他の包括利益合計	2,228	2,905
四半期包括利益	4,766	5,161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,764	5,159
少数株主に係る四半期包括利益	2	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成25年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内卸売 事業	海外卸売 事業	小売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,832	14,796	6,810	33,439	251	33,691	—	33,691
セグメント間の内部売上高又は振替高	408	771	1	1,181	73	1,255	△1,255	—
計	12,241	15,568	6,811	34,621	324	34,946	△1,255	33,691
セグメント利益又は損失(△)	4,807	2,472	△438	6,841	△53	6,787	△4,853	1,933

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、官公庁・民間向けの造園工事の施工、保険代理店業務、人材派遣業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,853百万円には、セグメント間取引消去54百万円、棚卸資産の調整額23百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,931百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の研究部門及び親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成26年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内卸売 事業	海外卸売 事業	小売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	12,314	19,071	6,243	37,629	239	37,869	—	37,869
セグメント間の内部売上高又は振替高	543	1,354	1	1,899	61	1,960	△1,960	—
計	12,857	20,425	6,245	39,529	300	39,829	△1,960	37,869
セグメント利益又は損失(△)	4,840	4,207	△462	8,586	△63	8,522	△5,187	3,335

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、官公庁・民間向けの造園工事の施工、保険代理店業務、人材派遣業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,187百万円には、セグメント間取引消去63百万円、棚卸資産の調整額82百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,333百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の研究部門及び親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。